

## 山行報告書

受付 No.	195	登山地・ルート	幸ノ川
目的	夏山に向けてのトレーニング		
メンバー	L：大山、松野、坂野		
行動記録			

月 日 曜	天候	ポイント地点・所要タイム
8・4・日	曇り	浜松＝木曾駒高原P～堰堤～二俣～登山道～駒石～麦草岳～避難小屋～ 6:00            6:56 8:40 11:30 13:04 13:45 14:35 登山口～木曾駒高原P＝浜松 16:07          16:44

記事      目的の成否・状況・問題点(反省)・メンバーの状況・ルートの注意点・自然状況

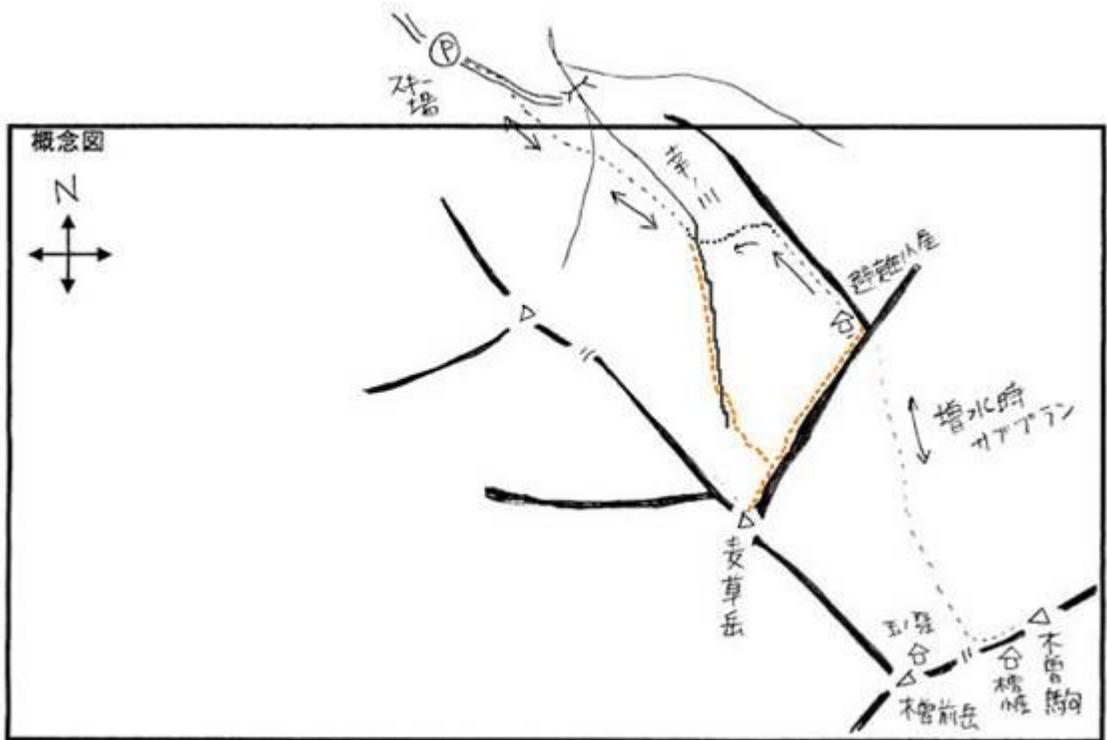
以前、同じ正沢川系の細尾沢を計画するなかで気になっていた幸ノ川に念願かなって行くことになった。国道19号線沿いの道の駅木曾福島で仮眠。外は想像以上に寒かった。車内に3人ではさすがにぎゅうぎゅうで、車止めの向こうに十分なスペースがあったのでテントも可能だったかもしれない。

朝、駐車場に移動するが、木曾駒高原スキー場は閉鎖されてしまったらしくナビに出てこない。そう考えると前の車の古いナビも悪くなかった…。記憶を頼りに信号を曲がって木曾駒高原方面へ向かい無事駐車場に着いた。最初は福島Bコースを歩いて河原に出たところで沢支度を整える。樹林帯に入っていく登山道と分かれ、沢沿いに左岸から堰堤を越えて遡行開始。出だしから沢は荒れていて流木が沢を埋めている。小滝にも流木がひっかかり、流木を足がかりに乗り越えること数回。流木が回って足を置いたスタンスが外れてひやっとすることも。最初こそルート図を見ながら進んだが、途中からは先頭に行く坂野氏の気の向くままに登れるところを登って行く。やがて前方に雪渓が現れる。スノーブリッジの下でまったく待っていた坂野氏が松野さんに注意されていた。初めてスノーブリッジの下を通る。不思議な感覚。ここを越えると流木もなくなりきれいな溪相となる。水流の横の乾いた岩には細かい葉っぱがたくさん積もっていて滑る。やがて二俣に行き着く。ここも雪渓があり、またしてもスノーブリッジをくぐる。スノーブリッジを抜けると目の前に階段状の滝。坂野氏はカッパのフードを被り登る気満々。巻けるところもないので割と水圧はあったが水に打たれつつ登る。その先も幾つか滝を越えたが、最大の40mの滝が出てこないまま(気付かないまま?)水流が少なくなってしまう。登山道に出る手前は足元が崩れやすく前に行く人の落石に注意しながら進み、地味な登山道に出る。

ここまでそれほど悪くなかったので、このまま谷沿いに麦草岳に抜けることにする。しかし高度を上げるにつれて出てきたのはシャクナゲと這松の壮絶な藪。シャクナゲの枝に絡まり、下に向けて伸びた這松の枝の中をもがきながら格闘すること30分くらいで稜線の登山道に抜けた。駒石の辺りに出て大休止。麦草岳をピストンして、10年前の登山地図にも地形図にもない麦草岳から北東に伸びる尾根を下る(ネットから取った坂野氏の地形図にはあり、麦草岳にも冬期ルートとして案内あり)。踏後は明瞭だが尾根を真っ直ぐに下るので結構傾斜がある。避難小屋に出てそこからは福島Bコースを下り、駐車場へ。温泉は駒の湯、700円(タオル付)。

紙面不足の場合は裏面へ

報告者	大山	受付	平成	年	月	日	受付者	
-----	----	----	----	---	---	---	-----	--



下部は流木などで埋まっている



沢登りらしい風景



「そんなところでくつろいでちゃダメ！」



二俣



滝の直登…こう見えて結構水圧あり



藪漕ぎ中…やっと姿が見えたけどまた藪にもぐる



40m滝はどこだ???



駒石にて。岩と見れば登っていく二人…



水流のなくなった沢を登る



麦草岳～なかなかアルペンチック